



令和4年11月17日(木)名古屋市立千音寺小学校での出前講義
 「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」
 「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」(共催：特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構(NPO J-DO)、Eプロ)

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生に「くすり」や「薬物依存」のことを知ってもらう授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構(NPO J-DO)の協力の下に行っています。昨年度と同様にNPO J-DOと名城大学 Enjoy Learning プロジェクト(通称：Eプロ)と協働して対面での出前講義を行いました。

名古屋市立千音寺小学校(伊与田玲子校長)の6年生主任 高井要治先生のご尽力により、令和4年11月17日(木)、名古屋市立千音寺小学校にて「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」を下記の内容にて開催しました。当日は、6年生の児童126名が「正しいくすりの使い方」「乱用薬物の危険性」を講義や体験・観察実験から学び、体験実験では「イソジンの色が消えちゃった!」「発泡スチロールが溶けちゃった!」と大好評でした。

名古屋市立千音寺小学校における「くすり教室」

日時：令和4年11月17日(木) 10時40分~11時40分

場所：名古屋市立千音寺小学校 体育館

内容：

・「実験を始める前のお話」：Q&A方式

くすりをどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるかについての講義をQ&A方式の児童参加型で行いました。学部5年の吉原希がスライドを使用して分かりやすく説明しました。小学生は問い掛けに対して積極的に答えてくれました。新型コロナウイルス感染症に関する手洗いで洗い残しが多い部分や適切なマスク着装についての講義に加え、目薬の正しい使い方や保管場所についての講義も行いました。

・「体験実験」

小学生は16グループ(1グループ7~9名)に分かれ、学部5年の吉原希がスライドを使用して、実験する目的を説明しながら体験実験を行いました。体験実験では、より理解できるように名城大学薬学部 野田幸裕教授(NPO J-DO 副理事長)、間宮隆吉准教授(NPO J-DO 理事)、薬学生(病態解析学I 院生1名、Eプロ・5年生9名、薬品作用学研究室5年生7名)が補助しました。

制作：名城大学薬学部病態解析学I
 (吉原希、野田幸裕)
 薬品作用学(間宮隆吉)
 監修：NPO J-DO



<実験項目>

実験 1：コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」を飲むのはなぜ？

実験 2：水がなくても飲める薬があるのを知ってる？

実験 3：「くすり」を「お茶」で飲むとどうになってしまうの？

実験 4：「うがいぐすり」でうがいた後に、すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの？

名古屋市立千音寺小学校における授業

「乱用薬物には絶対、手を出さない！」

日時：令和 4 年 11 月 17 日（木） 11 時 45 分～12 時 15 分

場所：名古屋市千音寺小学校 体育館

内容

- ・「乱用薬物には絶対、手を出さない！」：講義と実験

薬物乱用はどのように怖いのか、どのような薬がドラッグとして乱用されているか、身近で乱用されている薬の正しい情報、なぜ害があると分かっているにもかかわらず薬物を乱用するのかについて、野田幸裕教授がスライドを使用して分かりやすく説明しました。講義では、「タバコによって成長はどうになってしまうのだろう？」について、タバコを含む水で植物を育てると成長が遅くなるということをハツカダイコンの連続写真を用いて示しました。「お酒を飲むと脳の細胞や肝臓はどうになってしまうのだろう？」「シンナーを吸うと体はどうになってしまうのだろう？」については各グループにおいて薬学生による観察実験を行いました。

児童からは「タバコやお酒、危険ドラッグを勧められても断るよ！」という感想や、「レバーや卵の白身がアルコールによって変化しちゃった！」「シンナーをかけると発泡スチロール（ヒト細胞）が一瞬で溶けちゃった！」という驚きの声が多く上がりました。タバコやお酒、危険ドラッグが体にどのような影響を与えてしまうのか、乱用薬物の使用に誘われたらどのように自分の身を守れば良いのかということ、講義や観察実験を通して学ぶことができました。

